

図画工作

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

小学校学習指導要領 第7節図画工作 第3指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項(2)

第2の各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互の関連を図るよう
にすること。ただし、「B鑑賞」の指導については、指導の効果を高めるため必要がある場合
には、児童や学校の実態に応じて、独立して行うようにすること。

**表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成
することができる**

- ◆ 一つの題材において、造形活動と鑑賞活動とが往還するような学習過程を設定する
- ◆ 鑑賞の場面においても、表現と分けて設定するのではなく、味わったことを試したり、
表現に生かしたりすることができるような学習過程を設定する

進んで見たり、触ったり、話したりするなど、自ら働きかける能動的な
鑑賞活動を行うことの重要性を踏まえ、指導の充実を図りましょう。



「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして(例)

しかけて待つ	語らせつないで	認め励ます
<p>■友達と一緒に学ぶ</p> <p>「友達の話聞くことで、新しいことが分かった」その喜びを少しずつ感じることができるようにしていくことで、友達と一緒に学ぶことの大事さが浸透するようにする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人班では、2人ずつの対話になるが、3人班にすることで、対話の活性化を図る。 	<p>■根拠や理由を表出</p> <p>自ら働きかけながら見つけたよさや面白さを、児童自身が気付くようにする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように感じたのか、思ったのかの根拠や理由を形や色などを基に話したり、気持ちを振り返って書いたりするなど、気付きを自覚できるようにする。 	<p>■作品を見合う時間を設定</p> <p>完成した作品だけではなく、製作途中の作品を見合う時間を設定する。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の学びへつながるような声掛けを意識する。 ・互いのよさや個性などを認め合うように活動を進める。

ICTの活用について

第4学年 いくつもの海をこえて(立体に表す)

【ICTを活用する際の指導の工夫】

- ・児童は、表している過程で新しい発想が生まれ、新たな試みをしようとするが、できた形を変えていくことに抵抗感をもつ場合もあるので、ICT端末を活用し、表現の全ての過程を記録に残すことで、楽しんで作品を変化させていくことができる。
- ・タイムプラス動画を活用することで、だんだんと波が高くなったり、海面が細かい模様で埋まっていったりするなどの様子を連続して見ることができる。

【活用したソフトや機能】

- ・写真・動画撮影機能(タイムプラス機能またはコマ送り機能) ※タイムプラス機能がない場合、動画の再生バーを手動で進めることで代用可能(コマ送り機能)

【参考】StuDX Style (<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>)

